

湘南kamaaina 市川紀元

44



サーフボードに命吹き込む 縁の下の力持ち

海岸から内陸に20分ほど車を走らせた住宅地の一角にその工場はある。

いや、工場というほど大きなものではない。小さな部屋がいくつか寄り添うように繋がる小屋と言った方が正確かもしれない。

入り口には、木製のテーブルと椅子やソファが無造作に置かれ雨さえしのければ絶好のミーティングスペースだ。

大貫透さん(43)はサーフボードの仕上げと修理を手がける「アクション・グラス・ワークス」を営むサーフボード造りの職人だ。

サーフボード造りの工程は、大まかには原型となるフォームを削るシェイプ、シェイプされたフォームに樹脂をかけ強度を持たせるラミネート、そし

て研磨による仕上げを施すサンディングに分かれる。

大貫さんが受け持つのは主にラミネートとサンディングとリペア、そして完成したサーフボードに取り付けるフィンの製作だ。

シェイプを行うシェイパーと呼ばれる人たちは、サーファーからも注目され雑誌などのメディアに取り上げられる機会も多いが、後工程を受け持つ人たちが表舞台に登場することはまれだ。

大貫さんとサーフィンの出会いは10代までさかのぼる。大好きなサーフィンに極めたい、ただそのためだけに20歳のときカリフォルニアに住んでいた姉を頼りに渡米、レストランで働きながら波乗り三昧の日々を過ごす。サー

フボード造りに興味を持ち始めたのもこのころだ。

何も知らない白紙の状態から友人とサーフボードを造り始めるがわからないことだらけ、ときには知り合いの工場を見学させてもらいビデオを撮らせてもらったこともあったという。

3年間のカリフォルニアでの生活に終止符を打ち帰国、友人の紹介で日本でもトップクラスのサーフボードメーカーで働くことになる。

そこで大貫さんが目にしたものは日本人の持つものづくりに対する探究心、正しく「MADE IN JAPAN」のすごさだという。


その後、30歳で「アクション・グラス・ワークス」を設立するが、それ以降もハワイやカリフォルニアの工場に

修業に向くなどスキルの向上には余念がない。

大貫さんに今後のことを尋ねると「このあと4、5年はまだまだここを切り盛りするので大変そうだけど、自分たちだけじゃなく周りの人たちとの繋がりを大切に楽しくやっていけたら最高ですね」と答えてくれた。

話を終えると早々に仕事場に戻り作業を続ける大貫さん。完成間近のサーフボードに最後の調整を施すその眼は真剣そのものだ。

そんな大貫さんを天窓から入る冬の日差しが優しく包み込んでいた。

 Action Glass Works
www.agw-finman.com



写真展のお知らせ

「波乗りの街—湘南—」をテーマにした写真展を開催します。

藤沢駅南口 Jammin'

31日まで

☎0466・27・0605



いちかわ・のりもと 1960年2月11日生まれ。神奈川県藤沢市片瀬在住。93年ごろから本格的に湘南の波とサーファーを撮り始める。2005年には、キャノンギャラリー(銀座・梅田・名古屋・仙台・福岡・札幌)で写真展「波乗りの街—湘南—」を開催し好評を博す。06年以降も地元藤沢を中心に精力的に写真展を開催中。

kamaaina (カマアイナ) とは、ハワイ語で「住人」の意。

 surfshonan.com